



1999年11月29日

高崎市
市長 松浦 幸雄 様

社団法人 日本建築家協会(JIA)
関東甲信越支部支部長 服部 範
保存問題委員会委員長 兼松 紘一郎
JIA群馬クラブ代表 石川 純男



群馬音楽センター・井上房一郎邸保存に関する要望書

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

貴市におかれましては長い歴史の中で文化性の高い都市形成にご尽力なされて来年市制100周年を迎えられることに心よりお祝い申し上げる次第であります。

さて、貴市の「群馬音楽センター」は、外国人建築家でありながらその活動の過半を日本国内で行い、真に日本人の心をもって近代建築を創りつづけたアントニン・レーモンド氏の設計により、1961年に完成しました。以来、永く市民に親しまれ、街の景観形成に貢献し、市の象徴的建築であることは言うまでもありません。民意によってできた群馬交響楽団のホームグラウンドとして、市民の献金を中心にした浄財が集められて建築がなされ、建築家に全幅の信頼が寄せられたことに、A・レーモンド氏自身も「私の仕事として最良のもの」と後に回想しています。現在でも客席からステージを凝視した時ののみこまれるようなダイナミックな空間構成や外部の連続した11枚のコンクリート折版と高崎城址の緑との調和には改めて感動をそそります。また、我国の近代建築を論ずる上でも貴重な存在であり、オランダに本部を置く国際組織「DOCOMOMO」(別紙参照)の要請を受けて(社)日本建築学会が選定した20件の日本モダニズム建築の一つとなっていることからこの点でご確認頂けると存じます。

貴市にはもう一方でA・レーモンド氏の麻布の自邸を再現した「井上房一郎邸」が現存しております。この住宅は、今となっては貴重な存在となった「レーモンドスタイル」の典型的なものであり、「群馬音楽センター」誕生に多大な貢献をした井上氏とA・レーモンド氏の交流の様子を伺い知ることのできる貴重な建物であります。

私ども(社)日本建築家協会関東甲信越支部保存問題委員会は、市民に愛され使い続けられた建物を大切に、それに値するものの保存活用を理念として活動しております。

日本近代建築史上重要な役割を担った建築家によって完成された「群馬音楽センター・井上房一郎邸」が関係者のご努力により良好に維持されていることに改めて敬意を表します。

今後とも、この状態を保ち続けられる事を切望いたしますが、時を経た建築を守るには広く市民のご理解と関係者各位の熱意が必要不可欠であることは申すまでもありません。

市制100周年に際しまして、貴市の「建築・歴史・文化」の象徴として、ひいては日本の現近代建築遺産としてこの二つの建物が確実に次世代に継承されるための必要な処置が今までにも増して施されますようご要望申し上げます。

私ども(社)日本建築家協会といたしましてもできる限りの協力と支援をさせていただきますことを申し添えます。

敬具